

名張市

名張市史

NABARI HISTORY LETTER
No. 6

平成23年3月27日

●編集発行●

名張市総務部総務室市史編さん担当
〒518-0718 名張市丸之内54・8

☎0595・64・2249

名張と阿倍氏

―ヤマト政権の伊賀進出―

市史編集専門部会古代部会委員

荊木 美行 (皇學館大学史料編纂所教授)

かつての名張郡は、伊賀国の南部に位置し、伊賀盆地の南西部を占め、東は伊勢国、西は大和・山城二国、南は大和国、北は近江国にそれぞれ隣接しています。郡域は、現在の名張市のほか、奈良県旧宇陀郡や三重県旧一志郡の一部をも含んでいたと考えられます。

こうした地理的環境をみてわかるように、この地域は大和から東国に抜ける要路にあり、ヤマト政権とは早くから深い関係がありました。

例えば、『古事記』安寧天皇の段には、皇子師木津日子命の子の一人が、伊賀の須知の稲置、那婆理の稲置、三野の稲置の祖先であるとする伝承が記されています(「稲置」はヤマト政権の地方



女良塚古墳 (国史跡/美旗古墳群)

官で、屯倉(ヤマト政権の支配制度の一つ)や県の管理にありま

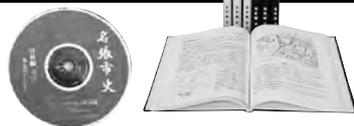
す。須知・那婆理・三野は、いずれも現在の名張市域の地名で、安寧天皇(正確には「大王」などと表記すべきですが、便宜上慣例に従います)の子孫が稲置としてこの地に配備されたという伝承は、かなり早い段階からヤマト政権の勢力がここまで及んでいたことを示唆しています。

阿閉臣・狭狭城山君・筑紫国造・越国造・伊賀臣七族の始祖であることを伝えています。大彦命は、埼玉県行田市の稲荷山古墳から出土した辛多銘鉄剣にその名が記されていたことで一躍有名になりましたが、先に引いた『日本書紀』の記事などから、阿倍氏、伊賀臣、阿閉臣といった伊賀地方ゆかりの豪族が、この大彦命を先祖と仰いでいたことが知られます。

この大彦命に関して注目されるのが、いわゆる四道將軍伝承です。『古事記』や『日本書紀』の崇神天皇の条には、天皇の命令を受けた將軍が、各地を平定したという伝承がみえるのですが、大彦命は越方(北陸)地方に派遣されたといえます。

この記事については、後代の阿倍臣の国境視察の史実の投影ともいえます。

名張市史第1巻 「名張市史 資料編 考古」 発売中



書籍版…5,000円
CD-ROM版…1,500円

販売場所

総務室市史編さん担当事務所 (名張市丸之内54・8旧老人福祉センター/名張藤堂家邸跡隣/☎64-2249)
または、市役所2階総務室
※郵送希望の方は、総務室市史編さん担当へお問い合わせください。

る見解もありますが、必ずしもそうとはいえないところもあります。その証拠に、大彦命が進んだと想定されるルート、具体的には、奈良県桜井市付近から伊賀を経て北陸方面にかけての地域には、先にあげた伊賀臣・阿閉臣をはじめとして、大彦命の系統をひく豪族の盤踞(根を張って動かない)としていた形跡があるのです。

大和盆地東部の桜井市に阿部という地名があります。実はこのあたりが阿倍氏のホームグラウンドです。桜井市には、桜井茶臼山古墳やメスリ山古墳といった大型の前方後円墳が存在しますが、これらは阿倍氏ゆかりの古墳だと考えられます。

古代史研究者の塚口義信先生は、それぞれの被葬者を大彦命、武津川別と考えておられます。その可能性は大きいと思います。こうした阿倍氏の本拠地から名張盆地に入ると、その入り口付近に今度は安部田(名張市安部田)という地名がみえます。地元の皆さんなら、どなたもよくご承知のはずです。これも、やはり阿倍氏ゆかりの地名で、このあたりに阿倍氏の勢力が及んでいたことを示す動かぬ証拠です。

名張市には、美旗古墳群の女良塚古墳や馬塚古墳のような三段築成の古墳があり、周辺地域に存在する石山古墳(伊賀市才良)や御墓山古墳(同市佐那具町)も、やはり三段築成の大きな古墳です。考古学者の中司照世先生によれば、三段築成は大和系(大和系)に限定されるそうですから、こうした伊賀地方における主要首長墓のあり方は、大彦命を孝元天皇皇子とする『日本書紀』の伝承とも矛盾しません。

大化改新直後の大化二年(六四六年)正月に畿内(当時の首都圏)の四至(四方の境界)を定めた際に、その東限を名張の横河(名張川)とします。これは奈良時代(首都圏)と範囲が少し違うのですが、この地方がヤマト政権との結び付きを考えると、決して理由のないことではないのです。